

今号の内容

- ② サマーチャレンジボランティア／辰野ボランティア運営委員会来所
- ③ みんなでランチ／ボランティア募集／日常生活自立支援事業
- ④ 赤い羽根共同募金／竹灯籠づくり
- ⑤ たかぎボランティア・地域活動情報誌さくみち
- ⑥ お知らせ／3か月の予定／職員の一言

●編集・発行● 社会福祉法人喬木村社会福祉協議会 〒395-1107長野県下伊那郡喬木村6670-1 TEL 0265-33-4567 FAX 0265-33-4619
Eメールアドレスtakagi-shakyo@miracle.ocn.ne.jp(代表) ホームページアドレス http://takagi-syakyo.com/
●印刷● 龍共印刷株式会社



喬木荘 敬老祝賀会



9月13日にお祝い授与式があり、今年度は101歳以上4名、百寿3名、白寿1名、米寿1名の方が喬木村村長よりお祝いを受け取られました。

9月14日には喬木荘敬老祝賀会にて全利用者様を盛大にお祝いしました。

サマーチャレンジボランティア

喬木中学生、高校生を対象にした夏休みボランティア体験

夏休み期間中の7月27日から8月18日にかけてボランティア活動をしてみたい学生や興味のある学生19名が、村内福祉事業所、地域のサロン等に参加されました。

子ども学遊館では、学習の時間の答え合わせや、問題の解き方を丁寧に教える様子がみられました。サロン活動では楽器を使って演奏に加わり、参加者と一緒に歌を盛り上げてくれました。

中学生の参加者より「今回のボランティア体験を今後の学校生活の中でも活かしていきたい」との感想がありました。体験を通していろいろなボランティアへ興味を持つきっかけになったと思います。



「子ども学遊館 学習の時間」



「サロン活動参加の様子」

辰野ボランティア・市民ネットワーク運営委員会 16名が喬木ボランティアセンターへ視察に来ました。



「情報交換会の様子」

9月22日喬木ボランティアセンターにて辰野ボランティア・市民ネットワーク運営委員会16名をお迎えし、視察研修を行いました。ボランティアセンターの案内、活動の紹介、センターの特徴や課題について情報交換会を行いました。

以前、みんなの広場アスポを建てる際に辰野町ボランティアセンターを訪問し、視察させていただいた縁もあり、今回、喬木村ボランティアセンターがどのように完成したか見てみたいと希望されて視察に至りました。

辰野町の方々から「明るくて、とても雰囲気の良い場所」との嬉しい一言もいただきました。

『みんなでランチ』初開催



地域で食材を循環し、子ども達にお腹一杯ご飯を食べてもらいたいという思いと、子どもと大人が交流できる機会をつくる目的で、地域のボランティアの方と協働で初めて開催をしました。

8月2日は南部防災センター、8月7日は福祉センターにて、地域からいただいた食材を使って、ボランティアの皆さんが作ったカレーを提供。また、夏休み中の子どもをもつ保護者の負担軽減になればとの思いで、喬木第一児童クラブ、喬木第二児童クラブの子ども達に加え、一般の方も招待し、多くの子どもたちにカレーを食べてもらうことができました。「おいしかったよ」「お腹いっぱいになった」とカレーを作ってくれたボランティアさんに声をかけてくれた子ども達の姿が印象的でした。

今後も地域の皆さんと協働で子どもたちを支えていく活動を続けていきたいと思ひます。



おばあちゃんと一緒にカレー作りのボランティアに参加してくれた小学生と中学生が、大活躍してくれました。

子どもの居場所 ボランティア募集



社協では、様々な事情により学校に行きづらい子ども達が集える居場所づくりを進めています。

そこで、居場所において子どもの活動を一緒にサポートしてくれる方を募集しています。子ども支援に関心のある方はぜひご協力をお願いします。

詳細につきましては、喬木村社会福祉協議会ボランティアセンター（☎ 33-5520）へお問い合わせください。



日常生活自立支援事業

～くらしの安心をお手伝いします～

生活の中で、こんな困ったことはありませんか？



福祉サービスの手続きがわからない



「計画的にお金を使いたい」けれども、うまくいかない...



通帳や印鑑をしまった場所を忘れてしまうことが...



そんな時には、**社会福祉協議会にご相談ください！**

認知症や知的障がい、精神障がい等により、必要な福祉サービスを自分の判断で適切に利用することが難しい方を対象に、「福祉サービスの利用援助」を基本サービスとして、「日常的な金銭管理」や通帳印鑑等をお預かりする「書類等の預かり」を行っています。

詳細については、喬木村社会福祉協議会☎ 33-5520 へお問い合わせください。

『赤い羽根共同募金』へのご協力をお願いいたします



赤い羽根共同募金の始まりは？

A 戦後間もない昭和22年に「国民助け合い運動」として始まりました。当初は戦後の復興の一助として、被災した福祉施設を中心に支援が行われました。その後法律に基づき地域福祉の推進の為に活用されてきました。

募金の方法は？

A 赤い羽根共同募金は目標額や配分方法を定め、その公表が社会福祉法により定められた募金活動です。喬木村では地区の通報員さんを通じて各戸から募金をお願いしています。他にイベント募金や法人募金等がありご協力をいただいています。

募金は集めて何に使っているの？

A 村で集められた募金は県の共同募金会へ入ります。その後、募金額の約65%が村への配分金として決定され、他は県等で福祉活動や災害防災事業等に配分されます。今年度の募金は来年度の地域福祉活動等に活用されます。喬木村では、障がい者の外出と交流事業として「希望の旅」、高齢者のひとり暮らしの方が「稲穂会」として外出や交流、異世代交流の「ふれ愛広場」、「生活支援事業」等を計画しています。

昨年も村民の皆さまからご協力をいただきありがとうございました。今年も全国で10月1日から共同募金活動が始まりました。10月から戸別募金のご協力をお願いしています。あくまでも任意の募金となりますので、趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い致します。



社会福祉法人中央共同募金会からお知らせ

「ボラサポ・令和5年7月豪雨」第2回短期助成事業
「ボラサポ・令和5年7月豪雨」第2回中長期助成事業

令和5年6月29日から7月の大雨により、山口県、福岡県、秋田県をはじめ各地で被災された方々や地域に対する復旧するための支援活動を行う、ボランティアグループ、NPO、法人等への助成があります。活動日数や助成内容等の違いがありますので詳しい内容はお問い合わせください。

令和4年度の募金額
893,237円

戸別募金・・・(623,765円)
法人募金・・・(228,500円)
他職域募金、イベント募金、
個人募金・・・(40,972円)

ご賛同ありがとうございました。



8月15日に「たかぎ祭り」が行われ、阿島区協賛で「竹灯籠作り」に参加しました。阿島区会役員約15名にご協力をいただき、多くの竹灯籠製作支援をしていただきました。見本の竹灯籠を参考に、自分のアイデアを出して製作される方や、親子で工具を使う楽しさを感じながら作られる方もいました。全部で17個の竹灯籠ができました。製作した作品はたかぎ祭りの記念や思い出になったのではないかと思います。出来上がった竹灯籠は、10月19日から22日まで開催される、「曙月庵 竹灯籠祭り」で展示します。是非皆さんでお越しください。



